

の與黨を小一揆と呼んだ。

(二)山内の戦—享祿四年本泉寺・松岡寺・光教寺・願得寺等の大一揆は超勝寺を成敗せんとしたので、超勝寺は本覺寺と共に能美郡山内に遁れ、大一揆は長嶺に於いて之と戦ひ、その諸道路を塞いだ。然るに七月廿三日下間等は白山本宮に陣して清澤の願得寺を焚き、若松の本泉寺連悟は能登に走りて畠山氏に寄り、河合八郎左衛門・洲崎孫四郎等も同國に入つた。超勝寺等亦石川・能美の小一揆を率ゐて、江沼の山田光教寺及び黒瀬覺道を屠らうとしたので、光教寺顯誓は月津口に逃撃し、八月十七日超勝寺の弟大垣内坊超玄を斬つた。この頃小一揆は亦波佐谷松岡寺に放火して坊主九人を捕虜とし、後に之を自害せしめたことがある。白山宮莊嚴講中記録にはその戦を七月以前に在つた如くに記するが、越前諸聽寺文書に十月五日附を以て證如が『今度於波佐谷被逐一戦、被得大利候。』といつてゐるから九月のことであらうと思はれる。松岡寺連慶等の生害は十一月十八日と傳へられる。

將とし、越中勢と共に河北郡に入つたから小一揆は腹背に敵を受けた。十月廿六日宗滴本折を發し、今湊川を涉つて石川郡番田・土室・藤塚を燒き、日暮寺井に歸つて陣した。この日小一揆の玄忍組は朝倉軍に通じて傍觀の態度を採つた。石川・河北の徒之を惡み、廿八日急に玄忍組を討つた。宗滴情を知り、兵を遣はして玄忍組の敗兵を收容せしめ、又多數の敵首を得た。然るに廿八日小一揆は戰場に遺棄せられた兩軍の首級を集め、越前の將士の名を註して、之を下街道に梟した。能登・越中の勢之を見て、越前勢が敗れたと誤信し士氣大に沮喪した。石川・河北の小一揆之に乗じて突撃し、畠山家俊以下を得た。時に宗滴は寺井の三堂山に在つたが、下勢の大敗して國中の小一揆盡く起らんとする謀報を得、陣を撤して越前に歸つた。白山宮莊嚴講中記録に之を十一月二日に在るとしてゐる。

(五)加賀浪人の越前退去—宗滴の越前に歸つた時、大一揆の黨當樞極泰の一族二十餘人は之に隨うて遁れ、翌天文元年三月には、先に能登に奔竄した河合八郎左衛門・洲崎孫四郎等二百餘人も海路から宗滴に憑つた。宗滴之を憐んで孝景に請ひ、田二千貫を割いて加賀浪人を扶養した。後浪人等屢宗滴の力を假りて故國に歸らんと欲したが許されなかつたので、二年八月二十日私兵を率ゐて江沼郡會字・直下に入つたが、能美・石川の小一揆は直に起つて、侵入軍の將黒瀬五郎兵衛以下十餘人を殺し、再び浪人を越前に逐うた。三年九月浪人亦牛ノ谷に出で、斥候を江沼郡に放つたが、その將黒瀬左近四郎は志を變じ、國境風谷を越えて加賀に去つたので、餘黨自ら四散した。

(六)大小一揆の和睦—是より先天文元年八月、山科の本願寺は六角定頼の黨によつて破却せられた。越登賀三州志によれば、此の時下間頼秀は宮、腰に舟を懸し、法主證如の跡を追うて浪華に赴いたから、越前に逃れた富樫氏一族も皆國に歸つたと記してゐる。かくの如く頼秀の去つた後は、國內小一揆の勢力舊の如くならず、隨うて大一揆首領との媾和成つて彼等を舊里に還住せしめたが、尙越前に殘留してゐた黒瀬一派があつて、天文二年三年の小動搖を記したことと思はれる。

(七)若松坊の不穩—天文六年八月も大一揆の首領であつた若松坊は、本願寺證如に對して敵意を挟み、四郡の長・三山の徒皆之に同意した。この若松坊は連悟のことであらう。洲崎兵庫・河合八郎左衛門もその徒であつたと見え、天文日記七年十月の條には、洲崎・河合が本願寺の命を奉ぜず、その罪淺からぬことを記してゐる。而して若松坊の行動を直に本願寺に注進した者の中には、常に大一揆と反對の地位に立つてゐた超勝寺があつた。次いで十二年六月朝倉氏が加賀に侵入せんとする風聞のあつた際にも、本願寺は書を超勝寺及び本覺寺に與へて警告した。當時此等諸坊が、本願寺と頗る親密の關係にあつたことを知り得られる。若松坊はその後も引續き本願寺と反目してゐたものゝ如く、之に同心した加賀浪人が、本願寺から後生御免の命に接したのは、連悟の寂後八年を経た天文十二年に在つた。

タイ

四九一

ダイジョウゴクセンジギョウジンダイ
大乘護國禪寺行事次第 二册。鑿山紹瑾編。

- 石川郡大乘寺に於ける年中行事を記す。開板は延寶五年同寺月舟宗胡の代である。
- ダイシヨウジ 大聖寺 (一)沿岸—江沼郡大聖寺町はもと白山の末院大聖寺の所在であつた。その地海岸に近い、越前の國境を超えて、加賀の平野に入る咽喉を扼するが故に、吉野朝の世既にその丘上に據つて城を構へたものがある。織田氏の時に至り、天正三年戸次廣正をこゝに置き、八年には拜郷家嘉が居り、豊臣氏の天正十一年には溝口秀勝を城主とし、慶長三年小早川秀秋の領に歸してその臣山口宗永を之に代へた。五年豊徳二氏の相争ふや、前田氏は徳川氏に屬して大坂方なる山口氏を屠り、戦後この地を受領し、寛永十六年前田利常は幕府に請ひ、その子利治を封じて藩屏たらしめた。爾後領主は陣屋を構へて居り、城郭を有しなかつたが、加能二國に諸侯の居たのは、金澤以外大聖寺のみであつたから、士庶相交つて小都會の觀をなした。町域の所屬は、江沼志稿に、慶徳寺の佛像裏書に熊坂庄大聖寺村とあるに因つて熊坂庄であるとしてゐる。後世は西庄に入れた。
- (二)町名—廢藩直後明治五年十一月に於ける大聖寺町の町名は次の如くであつた。

- 今出町 關町 越前町 山下 庄兵衛谷 下屋敷 大新道 東田町 西田町 三屋町 五徳町 中町 穴虫 馬場 八間道 仲町 番場新組町 殿町 福田片原町後北片原町 元采女屋敷後新町・耳開山・松ヶ根町に分屬す 藤ノ木 龜町 耳開山 耳開山仲町 鷹匠町 法華坊 寺町 福田町 片原町 京町 本町 魚町 觀音町 中新道 間新道 新屋敷 五軒町 東横町 十一町 一本橋町 山田町